

松の木と二世帯住宅

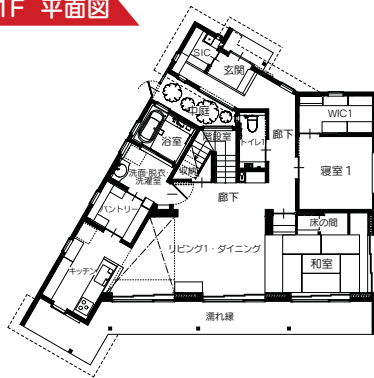
(まつのきとにせたいじゅうたく)

設計者/株式会社 下田設計

施工者/しろき創建



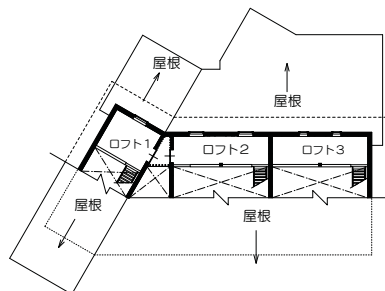
1F 平面図



2F 平面図



RF 平面図



設計主旨

CONCEPT

敷地は赤城山へ向かう山腹ともいえる小高い土地の上に位置する。近隣に住宅は少なく、四方に雄大な景色（赤城山、榛名山、貯水池、渋川と前橋の街並み）を臨むことのできる、静かで落ち着いた場所である。

夫婦（60、70代）と岐阜から戻ってくる予定のその長女家族（夫婦（40代）+こども3人）7人のための二世帯住宅であり、風呂とキッチンを共有しながら上下階で世帯のくらしをゆるやかに分けるような空間構成となっている。

当然、施主が2者となり、そのことが最も配慮される点であるが、世帯間の相異なる要望を一方のみを採用するのではなく、それらを両立させることにより、その要望以上の豊かな建築空間を生み出した住宅としている。この住宅をもっとも特徴づける変形プランもそれ故であり、結果としてその土地であるからこそ成立する唯一無二の建築が出来上がっている。自分たちにとって唯一無二のものには愛着も持ちやすく、世代から世代へと大事に住み継がれていってほしい。

両者の共通する要望としては「和」の建築ということであり、それらは日射を調整する深い軒や内外を緩やかに繋ぐ濡れ縁、視覚と共に採光と通風を促す中庭（坪庭）などの外部や、全引込の太鼓貼り障子や調湿作用のある壁の漆喰仕上げ、床のタモフローリングなどで表現している。内部仕上げはコスト調整しながらも可能な限り自然素材を採用し、こどもにも高齢者にも健康に良い空間としている。内部は吹き抜けや変形の階段室、2階各室に備わるロフトの煙突効果により、パッシブに室内環境を整えていく平面・断面計画が出来上がっている。同時にこの変化のある室内空間が上下階をつなげ、どこにいても家族の雰囲気を感じられる。皆で集まれる大空間（リビング・ダイニング）と個々に使える小空間（造り付けデスク、ベンチなど）を備え、家族の多様なありかたに対応している。また、敷地から臨めるパノラマティックな眺望に呼応するように、道路側から見た時には松の木～新築住宅～車庫/納戸の3つもパノラマティックに展開するように配置している。庭の残すべき既存樹木のうち松の木は必須であり、よって目の前に個室（寝室）を配置し、松の木を含めた3要素がこの地における新たな景観を作るようにとの思いも込めている。